

## 2017年6月実績概要(メモ)

(2017. 7. 20)

定修系列数の増加から多くの品目で前月割れとなる一方、前年対比では増加率が高い品目が目立つ。

## 1. 生産動向

イ) エチレン 480,600トン

前月比 ▲10.3% (▲55,400トン)  
前年同月比 +7.7% (+34,400トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲3.2%	-
定修要因等	▲6.0%	+7.4%
能力増減	-	+0.2%
稼働率変動	▲1.1%	+0.1%
生産増減率	▲10.3%	+7.7%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月96.5%→当月95.5%←前年同月95.4%  
定修プラント：前月1社1プラント→当月2社2プラント←前年同月2社2プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数減に加えて、定修系列数が増加した品目もあり、LD、HD、PP、PS、EO、EG、AN、トルエン、キシレンなどの15品目がマイナス。塩ビ樹脂、ベンゼンの2品目のみがプラスとなった。

前年比では、稼働率要因や定修規模の差からLD、PP、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、MMAモノマー、EO、EG、ベンゼンなどの10品目がプラス。HD、AN、SBRなどの7品目はマイナスとなった。

## 2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、LD、HD、PSでは日数減や定修系列数の増加からマイナス、PPは主に稼働率要因からマイナスとなり4樹脂ともにマイナスとなった。

前年比では、LDは稼働率要因、PPは定修系列数の減少からプラス。HDは主に定修系列数の増加からマイナスとなった。PSはほぼ前年並みの生産となった。

ロ) 国内出荷

前月比では、前月は連休に伴いユーザー側での稼働日数の減少があったが、当月は日数が増加したことからLD、HD、PP、PSの4樹脂でプラスとなった。

前年比では、LDでは電線被覆分野、加工紙分野等、HDではフィルム分野等の出荷がそれぞれ減少しマイナスとなった。また、PSでは本年第1四半期までの出荷が例年に比べて多かった影響が包装分野等で残り、3カ月連続してのマイナスとなった。これに対して、PPでは射出成形分野の出荷が引き続き堅調に推移しており、フィルム分野等の出荷減少を補いプラスとなった。

ハ) 輸出

定修シーズン中、輸出数量自体は此処数カ月は低位となっている。当月は前月に対して僅かながら増加しLD、HD、PP、PSでプラスとなった。前年比では、HD、PSはプラスとなったが、LD、PPでは大幅なマイナスが継続している。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HD、PP、PSともに減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対して、LDは横ばい、HD、PSは低下、PPは上昇した。在庫水準としては、LDは適正からやや高め、HDタイト気味、PP、PSはほぼ適正水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		5月末	6月末
LD	▲5,100	3.1	3.1
HD	▲25,700	2.5	2.2
PP	▲38,600	2.6	2.7
PS	▲3,900	1.6	1.5

以上